

### 1. 事業概要

事業名：令和3年度「訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業」  
世界文化遺産「北海道・北東北の縄文文化遺跡群」活用造成コンテンツ

#### 1-1. 事業目的

本事業は、訪日外国人旅行者の更なる消費拡大を図るため、観光庁・日本政府観光局による情報発信「Enjoy my Japan グローバルキャンペーン」等に対応した高付加価値な滞在コンテンツを、北海道運輸局と地方自治体、観光地域づくり法人（DMO）等が連携し、コンテンツを造成することを目的とする。

#### 1-2. 事業概要

- ・事業対象：北海道函館市
- ・期間：令和3年7月12日～令和4年3月18日
- ・商品造成のターゲット：高学歴且つ所得水準が高く、知的好奇心が強い層。
- ・ターゲット市場：台湾及び文化体験に対する関心の高いアメリカ、オーストラリア、カナダを想定するが、ターゲットが多く存在する可能性があるヨーロッパも視野に入れる。
- 外国人専門家からの指摘等により、ターゲットを「台湾及び欧米豪」とした。
- ・活用する地域資源：函館市の縄文文化遺跡群、及び市内のアウトドア、文化・歴史資源、食資源等。
- ・高付加価値・地域ならではのコンテンツを造成するための方針：「縄文遺跡群」の利活用に加え、「縄文遺跡群」と函館にある他の資源を掛け合わせた函館でしか体験できない滞在コンテンツ及びプログラムを造成する。



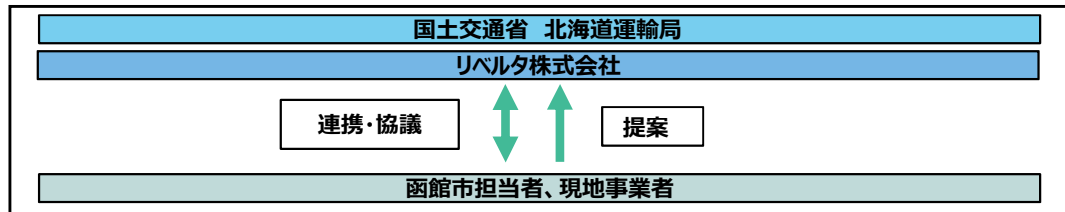
#### 1-4. 事業工程

本事業は以下の工程で進行した。

	令和3年					令和4年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.コンセプト・ストーリーの確立	■								
現地視察			■						
2.コンテンツ及びプログラム造成			■						
3.準備（上記1, 2に関わる）									
外国人や専門家にヒアリング		■							
ワークショップ・ガイド研修の実施			■	■	■				
検討会の開催			■	■	■				■
モニタリングツアー実施									
コンテンツ及びプログラムを含む旅行商品の開発・造成			■						
4.販売戦略・販売体制の策定・構築			■						
コンテンツ及びプログラム販売期間									■
報告書作成									■
ATWS									■

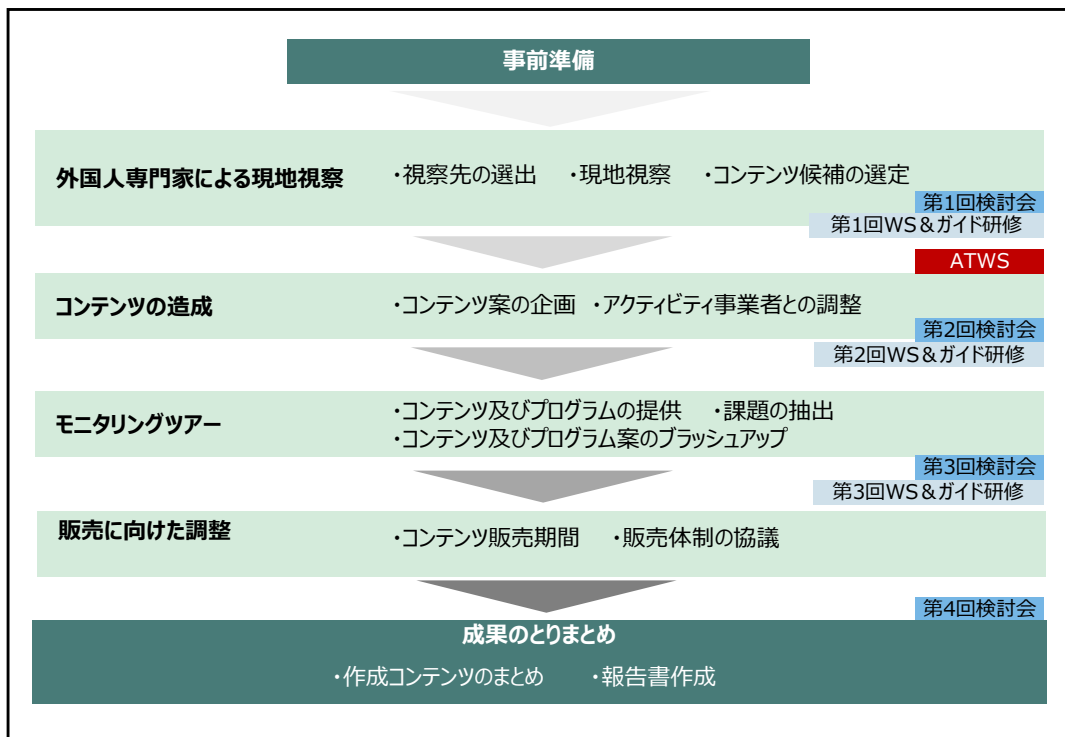
#### 1-5. 体制図

本事業は以下の体制で遂行した。



#### 1-3. 業務内容

本事業では、以下の業務を行った。



#### 1-6. コンテンツ造成にあたり協力を得た専門家

専門家氏名	所属	専門分野
阿部 千春氏	北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室特別研究員	縄文歴史文化
マーク・ブラジル氏	Japan Nature Guides	AT、ネイチャーガイド
サイ・ウェンル氏	台湾・香港市場インバウンドアドバイザー	アジア系インバウンドの集客
ヴィッキー・ウィリアム氏	三内丸山応援隊ボランティアガイド	縄文文化ガイドング
ブラッド・トウル氏	一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー	インバウンド向けプロモーション
波佐 敏成氏	株式会社クールスター	交通、高付加価値コンテンツの造成

#### 1-7. 事業費

本事業にかかった事業費を以下に示す。

項目	金額
<b>1.直接経費</b>	<b>3,643,500</b>
①検討会4回 ※4回目はリモート開催	1,292,500
②ワークショップ3回	175,000
③多言語・体験型コンテンツガイド等の育成3回	335,000
④モニタリングツアー	1,841,000
<b>2.企画費、人件費</b>	<b>4,430,000</b>
①コンセプトストーリーの確立	540,000
②コンテンツ及びプログラム造成	3,190,000
③造成コンテンツ及びプログラムの販売戦略・販売体制の策定・構築	700,000
<b>3.一般管理費</b>	<b>526,500</b>
<b>合計</b>	<b>8,600,000</b>

## 2. 外国人専門家による現地視察

### 《実施概要》

コンテンツ造成について協議を行う第1回検討会等に先駆け、より精度の高いアドバイスを受けられるよう、本事業のターゲットであるアジア圏と欧米豪圏出身の2名の外国人専門家に依頼し、縄文遺跡及び市内関連施設を中心とした現地視察を行った。視察概要について以下に示す。

### 《得られた結果》

縄文についての予備知識が少ない「外国人目線」での、函館縄文遺跡群に対する印象や気が付いた点を知ることで、検討会委員内でコンテンツ造成のための共通理解を得ることが及び、その後のプログラム造成の方向性の予備知識へと繋げることができた。

### 2-1. 視察概要

- ・ 視察目的：函館縄文遺跡及び市内関連施設のストーリー性要素の確認、旅行商品案としてスポット視察
- ・ 日時：令和3年9月12日（日）13時～18時
- ・ 外国人専門家：2名 / マーク・ブラジル氏、サイ・ウェル氏（オンライン）

日程	所要時間	視察地
9月12日（日） 13時～18時	60分	(1) 二本柳旅館
	60分	(2) 函館市縄文文化交流センター
	60分	(3) 垣ノ島遺跡
	30分	(4) 大船遺跡 ※視察時は立ち入り禁止のため、車窓から見学
	60分	(5) 函館市北方民族資料館



### 2-2. 視察結果

視察を行った結果、以下のことを把握することができた。

項目	抽出意見	課題
二本柳旅館	・ 雰囲気が良く、昼食で立ち寄るには良い場所。	
縄文文化交流センター ・ 垣ノ島遺跡 ・ 大船遺跡	・ 大船遺跡で函館の縄文人の当時の暮らしをイメージすることができた。 ・ 参加者が実際に手を動かして体験できるコンテンツが入るとわかりやすい。 ・ 函館単体というよりも、ここを起点に道南、南西北海道とエリアとして捉え、広域にルートを設定していくと良いのではないかと。 ・ 縄文遺跡のみを目的地として設定せず、行程の中にそれらも入れ込むのが妥当ではないかと。 ・ アイヌ文化がとても力強い印象があり、そのルーツとしての縄文を繋げてプレゼンするといのではないかと。 ・ 縄文時代の暮らしが「自然との共生」を軸としていることから、周辺の自然を体験するためにもサイクリング、カヤッキング、ハイキング、トレッキング等というアドベンチャーアクティビティと組み合わせるのが良い。 ・ テーマを「朝」や「夜」、「春夏秋冬」というふうには軸を持って定め、テーマ軸に沿ってコンテンツを当てはめてもいいのではないかと。 ・ ガイドの役割が極めて重要。何をここで話すのか、目に見えない価値をどう伝えるのか。興味や感心の度合いで、全く別なものになるだろう。 ・ ガイドさんが丁寧であった。 ・ 昔の人がどのように道具等を使用しているか、目の前で見られるのはすごく良い。特にクルミを実際に割って見せた場面がよかった。体験できる点は、台湾人にも受ける。 ・ ただ見て終わるだけでなく、体験して感じられるものがあればいいのではないかと。 ・ 縄文時代を体験できるキャンプができるといいかもしれない。	・ 目に見えるものが無いことから、縄文についての予備知識がないインバウンド客を案内することがとても難しい題材（海外遺跡では目に見えるも多く、その点が大きく異なる。）  ・ 現段階では海外での一般的に「縄文」に対する認知度が低いことから、わざわざ遺跡だけを目当てにAT客が函館まで来るとは想定しにくいいため、どう他のコンテンツと組み合わせるのかが重要である。  ・ 「精神性」や「自然との共生」等目に見えない価値に重きを置く縄文を、いかにして日本人以外にもわかりやすく魅力的なコンテンツに仕上げることができるか。
函館市北方民族資料館	・ 貴重な史料が多く保管された素晴らしい施設。縄文との結びつきが強いアイヌ文化について旅行者に知ってもらうために、是非時間を作って訪れて欲しい場所。	・ アイヌ文化や歴史にも知識がある通訳ガイドは必須。

### 2.3. 視察結果の反映

視察を行った結果、以下の事項を重点にコンテンツ造成を検討することとした。

本現地視察では、これまで函館縄文遺跡群のみに限らず、一般的な日本の「縄文」に対する予備知識がほとんど無い外国人旅行者が函館縄文遺跡関連の諸施設を訪れた際の、率直な印象や気が付いた点、更に改善すべき点等について意見を伺った。

その結果わかったのは、

- ・ 「縄文人」の具体的な暮らしのイメージが頭に浮かばない外国人には、何かしら目に見えるものをツールとして活用することや、自らの体験を通してのよりわかりやすい説明が必要。
- ・ 縄文のみ、函館市内のみといった狭い範囲内で組み立てるコンテンツではAT旅行者の期待値に十分に沿えないことが懸念されるため、より広いテーマ、より広いエリアでコンテンツの組み合わせを考えるべき。
- ・ 目に見えにくい遺跡の価値をインバウンド客に理解してもらうためには、ガイドというプロフェッショナルの役割と旅行者の興味・関心に合わせて説明の内容や深さなど話し方を調整できるガイディングスキルが極めて重要。

という点であった。これらのご意見を本事業におけるコンテンツ造成の土台部分の共通理解とし、モニタリングツアーまでに各検証コンテンツの具体化を目指し、引き続き各関係者と調整を進めていくこととした。

### 3. 検討会の実施

#### 《実施概要》

関係者間の意識共有、コンテンツ/プログラム造成及び販売体制構築に関する討議を行うことを目的として、検討会を4回開催した。

#### 《得られた成果》

縄文遺跡の活用や地域観光の振興に直接的に携わる地域のステークホルダーの合意を得ながら、各会のテーマについての検討・合意プロセスを進めることができた。

#### 3-1. 全体概要 以下の日程において検討会を実施した。

	検討会日程			
	日時	場所	参加人数	テーマ
第1回	令和3年9月13日 (月) 14:00-16:00	函館市亀田交流プラザ 小会議室1 ハイブリッド開催	20人 うちオンライン 参加6人	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業内容の説明</li> <li>現地視察報告</li> <li>コンテンツ案 48項目の紹介と意見交換</li> <li>コンセプト案の紹介</li> <li>ストーリー案の紹介</li> </ul>
第2回	令和3年10月14日 (木) 10:00-12:00	サン・リフレ函館 中会議室 ハイブリッド開催	17人 うちオンライン 参加5人	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回ワークショップ、ガイド研修の報告</li> <li>ファシリテーション型ガイドスタイルの説明</li> <li>コンテンツ素案の提示</li> <li>モニタリングツアーの方向性についての合意形成</li> </ul>
第3回	令和3年11月29日 (月) 15:00-17:00	函館アリーナ 会議室B3 ハイブリッド開催	16人 うちオンライン 参加2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリングツアーに参加した外国人専門家からのフィードバック</li> <li>商品造成に向けて、外国人専門家フィードバック（意見）を共有、検討</li> <li>実施主体、販路形成の内容</li> </ul>
第4回	令和4年2月24日 (木) 14:00-16:00	Zoomオンライン開催	22人	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売結果の報告</li> <li>造成した旅行プログラムの紹介等、本事業の振り返り</li> <li>次年度以降の課題整理とロードマップ合意</li> </ul>

#### 3-2. 検討会各回で得られた結果 以下について、関係者との情報共有及び合意が得られた。

##### 第1回検討会

- ・コンセプト要約：「世界遺産に認められた価値」を伝えつつ、縄文時代に函館で育まれた縄文人の生活や営みの一端を、旅行者一人一人が自らのペース、自らの興味関心に基づいて体験し、縄文人の暮らしぶりに触れるアドベンチャープログラム。
- ・ストーリー要約：縄文人に暮らしぶりに見られる自然との調和への姿勢、家族を思いやる心、高い芸術性、精霊信仰などの痕跡。これらは現代人が合理的に推測した「仮説・推論」に過ぎず、縄文の痕跡に触れそこから何を感じ、想像し、考えるかは人それぞれである。さあ、出かけよう。縄文というMaybe（答えの無い、答えの一義的に定まらない）の世界へ。
- ・コンテンツは48案のリストの中から物理的・規制的に実行が不可能なものは削除し、残ったものの中からAT旅行者の特性を考慮した上で所要時間や一日の中での開催時間帯、更に春夏秋冬といった季節性などを考えて更なるブラッシュアップとコンテンツ同士の組み合わせを考えるようにする。

##### 第2回検討会

- ・具体的な手法については今後更に検討が必要であるものの、AT旅行者自身に自分だけの縄文の価値観を探してもらうことがコンセプトとストーリーにも汲まれている特性とも関連して、本事業ではガイドが正解を教えるのではなく、旅行者とガイドとが一緒に議論や意見交換を行うファシリテーション型ガイディングを基調とする。
- ・「縄文キャンピング」「縄文フィッシング」「縄文サイクリング」「縄文プレートづくり」「縄文染物体験」「縄文スノーハイイク」といったプログラムの内容や実施方法、想定される課題や解決法についてサプライヤーと更に協議を進めながらブラッシュアップし、「函館の縄文の価値」を伝えられるプログラムを造成しモニタリングツアーに臨む。

##### 第3回検討会

- ・モニタリングツアーで開催したプログラムについてのレビューでも多く言われてたように、現時点では欧米豪加及び台湾や香港などのアジア圏における縄文に対する認知は低く、縄文をメインの目的、メインのアクティビティに据えたプログラム構成は難しいことが伺える。今後予定されている1ヶ月間のプログラム販売に向けて、今後は更にコンテンツの組み合わせ部分のブラッシュアップを行い、今現在の函館から縄文までタイムトラベルで時間を遡るような行程案を考える。
- ・AT客と通常の旅行者とでは嗜好が違うという点、また、AT客を含め観光客用に体験のブラッシュアップを行っていくということについて、この場で共通認識を持つことができたことは有意義な前進である。

##### 第4回検討会

- ・今後の販売体制については販売主体になって頂ける地元旅行会社から手が挙がらなかったことを受け、本事業に従事してきたリベルタ株式会社、現段階で販売主体となる旨について説明をした上で、地産地消のお金を生み出すためには地元事業者がプログラムの販売をしていくことが理想であること、今後そのための環境整備が必要である。
- ・国際観光都市函館に新しく縄文とATとを組み合わせ、これまでには無いような新しい付加価値の高いプログラムが誕生したものの、北海道、函館、縄文共に本事業のターゲットに設定していた欧米豪に向けて認知度を上げて行くための取り組みは、正に今始まったばかりである。本事業終了後も、官民連携でプログラム造成やコンテンツの継続的な販売やそのためのPRも含め連携して縄文を軸とした函館の観光振興に取り組んでいくこととする。



### 4. ワークショップの開催

#### 《実施概要》

地元ぐるみでコンテンツ造成を進めるために、体験コンテンツサプライヤーやガイド、観光関連事業者を含めた横連携の意識醸成をワークショップを通じて行った。（新型コロナ感染症対策として、ディスカッション等の手法は避けざるを得なかった。）また、抽出された課題に対しての外国人アドバイザーからの実践的なアドバイスを受けることで、体験コンテンツ開発のブラッシュアップの一助とした。

#### 《得られた成果》

（第1回）対象地域の観光に携わる関係者、体験コンテンツサプライヤー、並びに地域活動団体メンバーやガイド従事者に広くATの概念と現在のトラベル市場の動向などを伝えることができた。

（第2回）対象地域での「目に見えない地域資源の価値」の伝え方やコンテンツ造成について、事例紹介を通して実践的な学びを提供することができた。

（第3回）地域の自立自走開始後の継続的な商品の販売を意識し、横連携を重視した構成とすることで、地域内での関係者の繋がりが生まれた。

#### 4-1. ワークショップの実施概要 以下の日程においてワークショップを3回実施した。

	ワークショップ日程			
	日時	場所	参加人数	テーマ
第1回	令和3年9月14日 (火) 10:00-12:00	函館市亀田交流プラザ 大会議室1B ハイブリッド開催	22人 うちオンライン 参加7人	・アドベンチャートラベル（AT）概要について説明 ・AT受け入れ地域としての取り組みポイント「道内他地域や全国のATと、函館ATの今後の可能性について」（マーク・ブラジル氏） 「台湾人がコロナ後に求める旅行形態と価値観の変化について」（サイ・ウェル氏）
第2回	令和3年10月15日 (金) 10:00-12:00	函館市亀田交流プラザ 大会議室1B ハイブリッド開催	13人 うちオンライン 参加1人	・函館縄文遺跡の目に見えない価値の特徴と魅力（阿部 千春氏） ・目に見えない価値をインバウンド客に伝える工夫（ヴィッキー・ウィリアム氏）
第3回	令和3年11月30日 (火) 10:00-12:00	函館アリーナ 会議室B3 ハイブリッド開催	10人 うちオンライン 参加1人	・モニタリングツアーでの外国人招聘者からのフィードバックの共有 & この先の函館縄文観光の可能性について ・北海道内他地域でのインバウンド向けコンテンツ造成の取り組みについて事例紹介（波佐 敏成氏） ・外国人目線で考える世界に開かれた持続可能で質の高い観光地づくりについて（ブラッド・トウル氏）

#### 4-2. ワークショップの結果 参加者からアンケート結果の概要を以下に示す。

「講義の内容は実践的であったか」、「自身の現場で役立てられるものであったか」という設問については、全会を通して肯定的な回答が得られた。

回	アンケート結果（参加者コメント抜粋）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾人の好みが明確にわかったことが良かった。</li> <li>・講演の内容から、地方が持つ可能性を感じた。</li> <li>・どのような企画にしても、相手の興味関心や、ニーズを考えてという視点を改めて考える機会となった。</li> <li>・顧客満足度を上げるうえで、ツアーのタイトルを吟味することが重要で、顧客の過剰期待がないようにすることができる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文文化・時代をより一層理解できた。</li> <li>・日本人の信仰に自然崇拝と祖先崇拝の2つの基層があって、それが縄文終期から来ているというのは大変興味深い内容であった。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間と行政とのタイアップの必要性を感じた。特にブラッドさんの16年間に渡るご経験から現在に至るお話が良かった。</li> <li>・いかに縄文遺跡を魅力的に見せるのかを考えていかななくてはならない。また、それには時間がかかるということが分かった。</li> <li>・観光を活性化させるには、待ちの態勢だけではダメだということがよく分かる内容であった。</li> <li>・遺跡は函館市にあるが、ツアーを造成する場合は、隣接する自治体、関連民間企業との連携が重要であることがわかった。</li> <li>・看板1つでも細かくチェックが必要とのこと。確かにそう思う。しかし、ガイドや観光客が感じたことを、どこに発信し、フィードバックできるのかを、更に連携できる場が必要であると感じた。</li> </ul>

第1回



第2回



第3回



## 5. ガイド育成の実施

### 《実施概要》

AT顧客への対応を学び、知識と文化の橋渡しができる地域密着型ガイドの育成を行うこと、見えない価値を伝えるガイディングスキルや、ターゲットに合わせた提案を可能にするコミュニケーションスキル及びガイディングスキルの底上げを行うこと、更にアクティビティを実施する上で、想定されるケガやアクシデントに対応できる知識、事故を未然に防ぐためのガイディングを学ぶことを目的にガイド研修を行った。

### 《得られた成果》

- (第1回) 対象地域の観光に携わる関係者、コンテンツに携わる事業者、並びにガイド従事者に広くアドベンチャートラベルの概念とAT顧客のニーズ、対応ポイント等について伝えることができた。
- (第2回) 目に見えない価値であり伝えるのが難しいと言われている考古学（遺跡）コンテンツのわかりやすい伝え方について、他地域での例を基に実践的に学ぶ機会の提供を行うことができた。
- (第3回) ガイドとして身に付けておくべきATツアーのリスクマネジメントとファーストエイドについて、実践的な学びの場を提供することができた。

### 5-1. ガイド育成研修の実施概要

以下の日程においてガイド育成を3回実施した。

	ガイド育成研修日程			
	日時	場所	参加人数	テーマ
第1回	令和3年9月14日 (火) 14:00-16:00	函館市亀田交流プラザ 大会議室1B ハイブリッド開催	17人 うちオンライン 参加6人	・アドベンチャートラベル（AT）概要について説明 ・AT受入れ地域としての取り組みポイント 「AT概要、道内他地域や全国のAT事例、ATに参加するインバウンド客の傾向やガイド時の対応ポイントについて」（マーク・ブラジル氏） 「コロナ後、ホンモノ志向の台湾人が求めるコト体験とは？台湾人をガイド時のポイントについて」（サイ・ウエンル氏）
第2回	令和3年10月15日 (金) 13:30-15:30	函館市亀田交流プラザ 大会議室1B ハイブリッド開催	13人	・ファシリテーション型ガイド概要説明 ・見えない価値をシンプルに伝える&想像力を広げるためガイドの工夫（ロールプレイ） （ヴィッキー・ウィリアム氏）
第3回	令和3年11月30日 (火) 13:30-15:30	函館アリーナ 会議室B3 ハイブリッド開催	10人 うちオンライン 参加1人	・モニタリングツアー報告とガイド体験談：「スルーガイド体験で見えた課題・成し遂げた成果」 ・アドベンチャーーツーリズムのリスクマネジメントとファーストエイド

### 5-2. ガイド育成研修の結果

参加者からアンケート結果の概要を以下に示す。

「講義の内容は実践的であったか」、「自身の現場で役立てられるものであったか」という設問については、全会を通して肯定的な回答が得られた。また最終回では英語ガイドに対する意欲を質問したところ肯定的な回答が多かった。

回	アンケート結果（参加者コメント抜粋）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人観光客と、アドベンチャートラベルのお客様との違いがよく分かる内容であった。また、北海道の魅力を改めて知ることができ、函館を始め大沼や江差など、今後更に開拓していく必要があると感じた。</li> <li>・北海道の魅力を、まだまだこれからたくさんの人に伝えたいと思えるきっかけとなった内容であった。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いと応答のガイディングはあまり経験していないので、今後の課題であると感じた。</li> <li>・Simple Englishで良いという言葉で気が楽になった。</li> <li>・ヴィッキーさんの実践的体験、実践的な内容は臨場感があり良かった。</li> <li>・具体的に大船や垣ノ島の内容について教えて頂けたのでとても勉強になった。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恵山登山は、これまであまり注目されていなかった場所だと思うが、日本特有の火山とそれなりの登山というアクティビティの両方を楽しんで頂けたようなので、これから機会があれば是非自分自身でも挑戦してみたい。</li> <li>・リスクマネジメントについての坂本氏のプレゼンが素晴らしかった。大変ためになることばかりで、ガイドとしての役割を再確認ですることができた。</li> </ul>





## 6. モニタリングツアーの実施

### 《実施概要》

造成したコンテンツを検証するため、国内在住の外国人専門家を招請し、モニタリングツアーを実施した。

### 《得られた成果》

- ・コンテンツ及びモデルツアーの磨き上げに必要な課題が整理できた。
- ・顧客満足度に直結する、アドベンチャーガイドに求められる資質を抽出できた。
- ・外国人専門家のフィードバックやその後のアンケート結果をアクティビティ事業者様と共有することができた。また、それらを基に課題や今後の販売方法について調整することができた。

### 6-1. モニタリングツアーの開催

日時：令和3年11月3日（水）～11月7日（日） 4泊5日

外国人専門家：2名 / マーク・ブラジル氏、サイ・ウェンル氏

日程		行程概要
	11月3日 (水)	・集合&事前オリエンテーション
1日目	11月4日 (木)	・縄文文化交流センター見学 ・汐泊川カヌー体験 ・垣ノ島遺跡にて星観察 ・プリーフィング
2日目	11月5日 (金)	・大船遺跡にてネイチャーゲーム・日の出鑑賞 ・大船遺跡見学 ・足形プレート作成・鹿の角を使った釣り針作成体験 ・縄文フィッシング体験 ・垣ノ島遺跡見学
3日目	11月6日 (土)	・サイクリング ・恵山登山 ・プリーフィング
4日目	11月7日 (日)	・函館市北方民族資料館訪問 ・プリーフィング&解散



## 6-2. モニタリングツアーの結果

モニタリングツアーより以下のような意見を収集し、各コンテンツの改善点を抽出した。

コンテンツ案	外国人専門家の意見	改善点
縄文文化交流センター 垣ノ島遺跡 大船遺跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドの説明が被っている箇所が多い。</li> <li>・通訳が入った説明の場合、余計に時間がかかるので聞いている外国人客は飽きてしまう。</li> <li>・ガイドがマニュアル過ぎるため、プライベートな話題を盛り込んだ方が良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スルーガイドが入る場合、遺跡関連の説明を重複部分が無いように通しで行うことは可能か。</li> </ul>
汐泊川カヌー体験 (冒険ツアー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーは、ATクライアントを満足させる非常に高い可能性を秘めている。</li> <li>・縄文と汐泊川との繋がりについての説明を体験前にするべき。</li> <li>・天候が悪い場合のプランBを準備することが大事。</li> <li>・今回は短時間であったが、長いコースも面白そう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候が悪い場合のプランBを常に準備し、どのタイミングでその判断をするか事前に決めておく。</li> </ul>
縄文クラフト体験 釣り針から作る縄文フィッシング&足形付土版制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラフトはあまりAT客には適さない。</li> <li>・AT客は本物を見て良いものを買って帰りたいと思う。</li> <li>・海外旅行者がプレートを持って帰るのは荷物が重くなるので難しい。一般のインバウンド観光ツアーであれば鹿骨のアクセサリ程度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンターテインメント性をどう持たせるか。AT旅行者に対してのクラフト制作自体の必要性。プレートを作る場合はサイズを要検討し、持ち帰りできるサイズへ。</li> </ul>
縄文フィッシング体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒がしく、コンクリートに囲まれた港でわざわざ釣りをする楽しみが分からない。どうせ縄文に絡めて釣りをするのであれば自然のある場所（川、ビーチ等）でやりたいと思う。</li> <li>・港で釣りは雰囲気がない。釣りは基本的に待つしかないの、ツアー中に入れるのは厳しい。海外まで来てする特別感を感じない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケーションの選択。</li> <li>・魚釣りを好まない、ベジタリアンへの対応。</li> <li>・縄文との更なる結びつけ。</li> </ul>
サイクリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティとしてのサイクリングは魅力的。</li> <li>・ルートは改善する必要がある。海岸線であれば、もっと自然の多い場所を選択すべきであり、コンクリートが多いこのコースはあまり魅力を感じないが、途中で目にした地元の人々の暮らしの様子がわかる風景は興味深かった。</li> <li>・E-bikeがあれば、更にいいコースを長い距離でも走ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・41号線など、より自然風景のいいルートを選択。</li> <li>・E-bike等、電動自転車の使用の検討。</li> </ul>
恵山登山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山の無い国も多い中で、旅行者からすると、この景色は魅力的であり面白い。色々な角度から見たと思う。</li> <li>・今回は山頂まで行く時間が無かったが、山頂まで行えるように時間配分は必須。</li> <li>・撮影ポイントも多くあり良かった。</li> <li>・昔から活火山であったなら、縄文人は自然災害と向き合ったのか等のストーリーがあると尚よい。台湾に似たような山があるが、台湾から函館、道南のツアーの一貫で来るのであれば、行く価値があると感じた。トイレなどの設備もあり、駐車場からアクセスも良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展望台から見える向こう岸の景色や津軽海峡に縄文人の移動や精神性を重ねるなど、更に恵山ハイキングと縄文を繋げるためのストーリーとガイドングが必要。</li> </ul>

## 7. 事業成果

### 7-1. 事業目標に対する成果

プログラム販売期間：2022年2月1日～3月1日

- ・2月1日 函館縄文4プログラム掲載開始
- ・2月14日 函館縄文：弊社（Heartland Japan）SNSで投稿
- ・2月28日 ニュースレター（7806通配信）

コロナ禍であり、旅行目的での海外から日本へ渡航できない状況の中、3月15日現在、残念ながら、現実的に予約へつながらず問合せを獲得することはできなかった。

アウトプット		造成プログラム数		4
アウトカム	目標数	実績数 令和4年3月15日現在	販売開始時期	
令和3年度 コンテンツ・プログラム参加者数	16名	0	令和4年2月1日～	
令和3年度 コンテンツ・プログラム販売金額	128千円	0		
令和4年度 コンテンツ・プログラム参加者数	320名	-		

### 7-2. コンテンツの造成方針 コンテンツの造成方針を以下の通りとし、商品造成を行った。

	当初	最終	変更理由
ターゲット	・欧米豪加、及び台湾からの高学歴且つ所得水準が高く、知的好奇心が強い層	・ターゲット国を台湾及び欧米豪への変更。	・外国人専門家から、世界的に「縄文」の認知度がまだ低く、当初想定のような「米豪加」といった細かく国を設定することは不適當であるとの意見があったことから、「台湾+欧米豪」へと変更した。

### 7-3. 造成したコンテンツの高付加価値・地域ならではのポイント

これまでも函館市は多くの観光資源を有する国内でも台湾などアジア系のインバウンド客に人気の高い目的地であったものの、「縄文」という地域固有の資産であり、且つ旅行者の知的好奇心を刺激するテーマを一本の軸として複数の観光資源を掛け合わせたプログラムは存在しておらず、本事業で造成したプログラムは新規性という側面が高い付加価値を持つ。また、歴史文化系のコンテンツとソフトアクティビティを組み合わせることで、本事業で造成したコンテンツの一つのフックに、新型コロナウイルス収束後にはこれまでもとは異なる新しい層に対しても函館という地域の訴求力が高まることが期待される。

### 7-4. 造成されたコンテンツ 造成されたコンテンツを以下に列挙する。

No	名称	概要
1	■デイトリップ：縄文時代から近現代まで、函館の街の歴史を時代を超えて遡るタイムトラベル（日帰り）	・北海道の歴史の縮図ともいえる函館の街を近現代から、アイヌ、縄文時代へとタイムマシンに乗った気分で遡るタイムトラベル。 ・函館の街並みを一望できる函館山ハイキング、アイヌ文化について造詣を深める北方民族資料館の訪問、更にユネスコ世界文化遺産へ登録となった垣ノ島遺跡と大船遺跡を訪問し函館ならではの縄文文化の発展について学ぶ旅。
2	■海と山のルートを自転車で満喫。世界遺産縄文遺跡を目指す亀田半島3日間の縄文サイクリングアドベンチャー（2泊3日ツアー）	・北海道の歴史の縮図ともいえる函館の街を近現代から、アイヌ、縄文時代へとタイムマシンに乗った気分で遡るタイムトラベル。 ・自転車をすることで、二次交通の課題を解決。 ・函館ならではの北海道から本州下北半島を臨む景色や、昆布漁師たちの暮らしを自転車で乗りながら横目に垣間見、交易のため縄文人も木舟で渡ったと言われる津軽海峡の潮風を全身で感じるエコフレンドリーな旅。
3	■世界遺産縄文遺跡と歴史ロマン溢れる函館山・恵山をめぐるハイキングツアー（1泊2日）	・北海道の歴史の縮図ともいえる函館の街を近現代から、アイヌ、縄文時代へとタイムマシンに乗った気分で遡るタイムトラベル。 ・函館の人々、歴史、自然を象徴する二つの山：函館山と恵山のハイキングを通してこれまであまり知られてこなかった函館ならではの悠久の歴史やその背景に横たわるストーリーを学ぶ旅。
4	■世界遺産縄文遺跡と歴史溢れる函館山ハイキング&夕泊川カヌーアドベンチャーツアー（1泊2日）	・北海道の歴史の縮図ともいえる函館の街を近現代から、アイヌ、縄文時代へとタイムマシンに乗った気分で遡るタイムトラベル。 ・函館山ハイキングに加え、川沿いに縄文遺跡が密集する夕泊川をカヌーでゆっくりと下りながら函館の縄文人の暮らしに思いを馳せる旅。

### 商品タリフ



### 商品販売ページ

